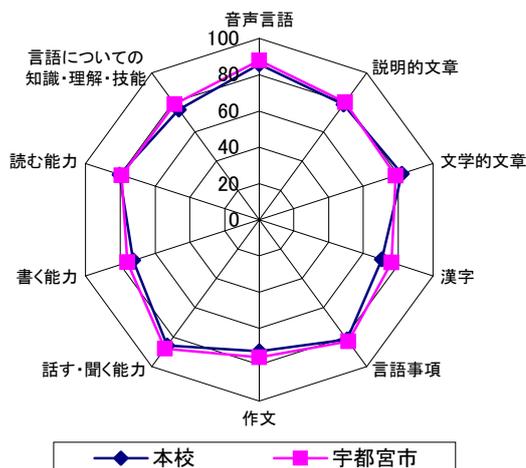


宇都宮市立宝木小学校第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	85.8	87.8
	説明的文章	78.5	80.1
	文学的文章	82.0	78.6
	漢字	70.7	76.1
	言語事項	81.7	83.0
	作文	72.5	75.9
観点別	話す・聞く能力	85.8	87.8
	書く能力	72.5	75.9
	読む能力	80.2	79.3
	言語についての知識・理解・技能	75.1	78.9



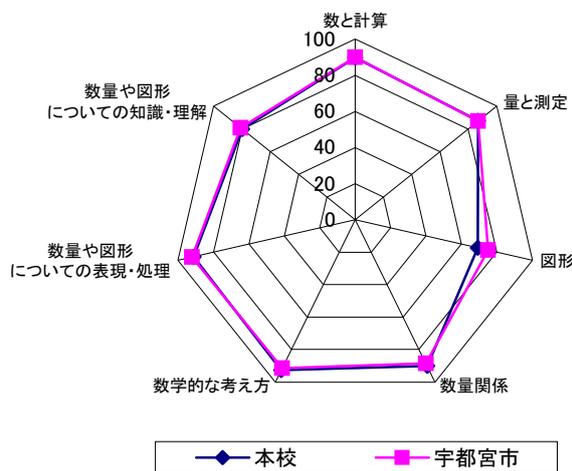
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (85.8%)	平均正答率は、市平均よりわずかに下回っている。話の中心の聞き取りや内容の聞き取りはできていたが、話題に沿った質問についての正答率がし平均を大きく下回っている。	聞く力・話す力を他教科や学校生活全般で重点を置いて指導する。
説明的文章 (78.5%)	平均正答率は、市平均を下回っている。段落の要旨を捉える問題や文脈に即した内容の理解は市平均をわずかに上回ったが、文脈に即した内容の理解や文章全体の内容の理解は下回っている。接続後の補充については、全体の半分強程度の正答だけだった。	文脈に即した内容の理解のために、読みを深めるための課題を設定し、課題を手がかりにして考え、話し合う活動を取り入れる。接続後の文中での役割にも注目させる。物語に偏ることなく、説明文等の様々な分野の本へ読書活動の幅を広げていく。
文学的文章 (82.0%)	平均正答率は、市平均を上回っている。語句の補充や語句の意味は90%の正答率であった。登場人物の様子を読み取りも市平均を上回った。文脈に即した内容の理解も市平均は上回っているが、他の内容より正答率が低く、今までも教科の中で指導してきたが、今後も十分な指導を要する。	今後も読書活動を推進を図るとともに、登場人物の心情や表現のよさについても読み取らせるようにしていく。指示語については、文章に沿って考えさせていく。
漢字 (70.7%)	漢字の読みはできていたが、漢字の書きは正答率が低い。3年で習った漢字の書きの誤答があった。	漢字スキルを活用し、筆順や形、読みや熟語等を練習させる。
言語事項 (81.7%)	活用のある単語・漢字の部首・常体と敬体はできていたが、国語辞典の使い方については、正答率が低く市平均を下回っていた。	文章の読み取り時にも国語辞典を使って語句の意味調べをし辞典を使う習慣をつけさせる。文法や表記についての習熟を図る練習問題を行う。
作文 (72.5%)	手紙を書く問題の正答率は、市平均より低い。手紙に必要な内容を入れることや呼びかける言葉を入れて書くことが70%程度の正答率だった。	お礼の手紙は何度か書く機会があったが、形式に沿った手紙を書く機会が少ないので、相手や目的をはっきりさせた手紙を書く機会を設け、形式や内容のまとめ方を指導していく。

宇都宮市立宝木小学校第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と計算	89.7	89.9
	量と測定	87.0	86.8
	図形	69.2	74.9
	数量関係	90.1	88.5
観点別	数学的な考え方	92.6	91.4
	数量や図形についての表現・処理	91.0	91.9
	数量や図形についての知識・理解	79.8	80.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算 (89.7%)	平均正答率は、市平均とほぼ同じで十分達成していると言える。足し算と引き算の筆算については、繰り上がり・繰り下がりのあるものもないものも市平均を下回っている。掛け算の文章題では、立式・答えとも市平均を上回っているが、答えの方が5%低い。筆算をするときに、掛け算九九の勘違いや繰り上がりのときの足し算の誤りと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> 繰り下がりのある引き算を中心に反復練習や習熟度別学習でさらに習熟を図る。 大きな数については、十進位取りを理解させ、復習させる。
量と測定 (87.0%)	平均正答率は、市平均とほぼ同じで達成していると言える。道のりについては、やや下回っているが、長さの単位については、ほぼ同じである。	<ul style="list-style-type: none"> かさについては、かさと単位が一致するよう具体的なかさを示し、復習させる。
図形 (69.2%)	市平均を下回っている。直角三角形の弁別は市平均を下回っているが、長方形の弁別は市平均をわずかに上回った。二等辺三角形の名前を正しく書けた児童は市平均を下回り、学年の3分の2程度だった。	<ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素や基本図形の特徴、図形同士の相違点、類似点等野理解を深めるために描いたり切ったりする作業や操作活動の時間を十分取り入れるようにする。三角形や四角形、円、体の形と名前を一致して覚えるよう復習する。
数量関係 (90.1%)	棒グラフをよむことはできているが、かく問題の正答率は、市平均を下回っていて、無記入が13%ある。	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフをかく作業を多く取り入れ、人目盛りが表す量をつかませるようにする。